

【はじめに】

2009年、法大闘争は歴史的な前進をかちとりました。戦前来の治安弾圧法＝暴処法による弾圧に対して全員が一步もひくことなく闘いぬき、長期勾留の攻撃をうちやぶって年内に8人の仲間全員の保釈を実現したのです！ この闘いは、一人ひとりの学生が処分や逮捕に屈することなく闘いぬき、勝利する力をもっていることをはっきりと示しました。

大恐慌は、大失業となって労働者・学生に襲いかかっています。政府は「経済危機だから仕方ない」と労働者の首を切る大企業を救済し、大学資本は「就職できなくても自己責任だ」と、学生にすべての矛盾をおしつけています。人間が生きることのすべてを金儲けの道具としてきた新自由主義は、雇用も教育も医療も福祉もなにひとつ保障することができないばかりか、逆にこの社会を破壊しています。私たち学生・労働者の存在は、もはや資本主義社会とはあいられません。

資本主義のもとで商品とされている限り、学生は誇りも仲間も奪われたままです。しかし、一人ひとりの学生は例外なく、この転倒しきった現実に怒りを爆発させてたちむかったときに、誇りと人間らしい生きかたを奪いかえし、隣の仲間と団結することができる力をもっています。この団結こそが、歴史を先へ進める力です。

現下の私たちの課題は、法大闘争のなかでうちたてた「教育の民営化粉碎！」というスローガンと団結を、3万法大生、全国300万人の学生の中に拡大してゆくことです。

【1】法大—日本における教育の民営化の現実

4年前の3月14日、法大当局は「ビラまき・立て看板規制」の一方向的な通告を根拠に、学生活動への全面規制を開始。それに反対した学生29人を、招き入れた200人の公安警察に逮捕させるという暴挙をはたらきました。それを理由に5人の学生が停学・退学処分をうけます。以来法大当局は、国家権力と癒着を強め、積極的に学生を警察に売り渡しては無期停学や退学の処分を下し、闘う学生をキャンパスから追放してきました。この4年あまりで逮捕者・起訴者はそれぞれのべ118人、33人に、そして被処分者は11人にもものぼります。

さらに法政大学は、「営業権」を主張して金儲けを正当化するほどに腐敗しています。1回あたり3万5000円の受験料、1年間で124万4千～208万3千円（09年度入学、初年度合計）の授業料は学生とその家族に重くのしかかり、多くの学生が奨学金というビジネスで借金漬けにされています。

そうして集められた授業料は150個の監視カメラや有刺鉄線、暴力ガードマンやビデオカメラを構えた弾圧専門職員たちに姿を変えます。さらに大学総資産の3分の1までもが理事会の私腹を肥やすためのマネーゲームにつきこまれ、昨年度だけで実に28億円が吹き飛びました。一方で高額な学費を払えない学生はキャンパスから追放され、名前を記した大きな看板を各門に張り出された仲間さえいます。「営業」の場となった大学が人権を踏みにじり、学生から未来を奪っているのです。

さらに法大当局は「営業権」の保全を理由に、オープンキャンパスや入試における情宣禁止の仮処分を裁判所に下させました。ビラまきは「営業権の侵害」だということです。これは、憲法すらも金儲けの権利に追従させる改憲攻撃そのものです。あげく、受験生に対してこうした金儲け第一のあり方を批判するビラをまいた仲間を「威力業務妨害」のでっちあげで逮捕させました。

法政大学で起こっていることは資本による「教育の民営化」です。民営化の意味するものは法大化です。ゆえに法大闘争は全国すべての大学のあり方を左右する闘いであり、全学生の未来をかけた闘いです。法政大学での勝利が力関係を決めるのです。さらに、新自由主義と真っ向から激突するこの闘いは、民営化と対決する全世界の仲間の闘いと固くひとつです。

【2】絶対反対を貫けば学生は団結できる

こうした攻撃と軌を一にして、学生団体に対しては解体攻撃がかけられてきました。当局は08年春、学友会の廃止を決定、サークル団体である文化連盟など3団体を非公認化しました。この過程で当局が行ったことは徹底的な分断であり、「文化連盟に残ったサークルには補助金を出さない」という恫喝と切り崩しでした。こうした中で絶対反対を貫けなかった旧執行部は、「学生は闘っても勝てない」と条件交渉に応じ、学生の誇りを投げ捨てて当局に買収されるまでに屈服していきました。

サークル員を裏切った旧執行部に怒りを爆発させ、「奴隷の道を拒否しよう！」と、「学友会廃止絶対反対」のスローガンを掲げてたちあがったのが現在の文化連盟です。そして、「このままでは自分の存在が消されてしまう」という思いからの、学生の存在と尊厳をかけた根底的な決起でした。

【3】弾圧を団結に転化してきた法大闘争

この過程で、一人のメンバーに見せしめ処分がかけられました。これに対して文化連盟は「一人の仲間も見捨てない。これ以上の大学の暴挙を絶対に許さない」というスローガンを掲げ、学生は仲間のためにたちあがる存在だということを鮮烈にたたきつけました。08年5月20日には全員が処分覚悟でキャンパス中央に登場し、当局の決めた「ルール」を実力でふみやぶってマイクを握りました。処分粉碎の闘いを通して、「決して仲間を裏切らない」学生の団結をキャンパスに復権したのです。

これに恐怖した当局が5月29日の学内集会・デモに対してかけてきたのが、33人の逮捕—14人の起訴という大弾圧です。

法大闘争は、「弾圧なくして団結なし」という言葉が示しているように、激しい弾圧を団結へと転化して前進してきました。資本主義の枠内で生きてゆこうとする限り、弾圧は有効です。しかし、ひとたび学生がこの腐りきった社会を自らの手で仲間とともに変革するという認識と実践とにたったとき、弾圧は完全に無力化します。いっさいを奪うかにみえる弾圧も、仲間を守りたい、人間らしくありたいと思う情熱を奪うことは絶対にできないのです。

【4】学生の団結にはすべてをうちやぶる力がある

「不当処分撤回！」「監獄大学粉碎！」を掲げてかちとられた2009年4月24日の集会は、文化連盟のよびかけにこたえた1000人以上の学生が教職員の阻止線を実力で突破し、合流して実現しました。当日の5学生の逮捕への怒りをもバネとし、法大生の積もりに積もった怒りが1500人の大集会となってたたきつけられました。

4・24集会は、当局の暴力支配も大学の私物化も、学生が「おかしい」と声をあげた瞬間に崩壊するという、学生の団結した力はどんな攻撃もうちやぶることができるということを全法大生に示しました。不当処分撤回闘争を通じて、資本によって奪われたキャンパスの支配権を学生の手で奪い取ったのです。

これに対する大反動としてかけられたのが、団結そのものを犯罪とする5月暴処法弾圧でした。しかしながら、「仲間を売れ」という連日の転向強要、長期の勾留に対して全員が完全黙秘・非転向を貫き、

国家権力との絶対非和解に闘いぬく中で不拔の団結をつくりあげてきました。

団結こそが学生のもつ唯一の武器であり、法大闘争のすべてです。私たちは常に団結のみに依拠して闘い、たとえ目に見える成果がなくとも、団結をいかに強化・拡大してゆくかにこだわってきました。この路線を曲げずに貫きとおすことで、攻撃を逆に学生の団結と敵の墓穴に転じてきたのです。

【5】学生は労働者とともに社会変革にたちあがろう

「大学とは原材料（＝高校生）を仕入れ、加工して製品に仕上げ、卒業証書という保証書をつけて企業へと送り出す場所」－これは首都大学東京理事長・高橋宏の言葉です。日本では90年代以来、大学は従順な労働力商品を生産するための工場、「教育」をかたって資本が私物化し、金儲けをする場へとおとしめられてきました。学生の団結を徹底的に破壊するため、全国で学生自治会・自治寮廃止の攻撃が吹き荒れました。

大学でのすさまじい競争と高額な受験料や学費、就職活動が、すべての学生にとって桎梏となっています（09年12月時点での大学4年生の就職内定率は過去最低の73.1%を記録）。

新自由主義のもとで、本来人間を豊かにし、社会を発展させてゆくための教育までもが仲間を蹴落とす競争の道具とされ、生きるための手段におとしめられているのです。社会でもっとも自由な場所であるべき大学が監獄となって学生を食いものにし、奴隷の鎖に縛りつけています。しかし、私たち学生はそんなちっぽけな存在ではありません。学生こそは誇り高いキャンパスの主人公であり、古い価値観をぶち壊して新たな歴史を創造してゆく未来の体現者です。隣の学生はともに闘う大切な仲間です。

09年6月15日に法政大学で行われた労学共闘の集会には、全国から学生のみならず労働者の仲間が大挙かけつけ、1200人が法大のあり方に対する怒りの声をあげました。私たち学生が社会の主人公である労働者と団結してすべてを奪いかえす中にこそ、真に豊かな教育があり、未来があります。

歴史の主人公は私たち学生・労働者です。大恐慌のもと、世界中にみちている怒りの声をひとつにして新自由主義に大反撃をたたきつけるときがきました。今こそ学生は労働者とともにたちあがり、資本主義社会そのものを根底から変革しましょう。私たちはアメリカの同志のみなさんとみなさんの闘いから学びつくし、必ずや日本の地で2010年、大学・教育・未来を奪いかえす全国学生ストライキを実現します。その突破口を切り開くのが、4月23日の法政大学キャンパス集会です。この集会は、JRにおける動労千葉を先頭とする外注化反対・解雇撤回の闘い、沖縄における基地撤去闘争と一体で闘われます。この闘いにむけて、ぜひとも日本で闘う学生に連帯のメッセージをよせてください。

団結した学生の力は無限大です。国際連帯の力で新自由主義をうち倒し、私たちの未来を切り開きましょう！